

くりやざわばし

栗谷沢橋

Kuriyazawa - Bridge



最上郡 真室川町 大字川ノ内 地内

【位置図】

【事業概要】

主要地方道真室川鮭川線は、真室川町の及位から鮭川村の目下を繋ぐ主要幹線道路で、第二次緊急輸送道路となっています。

栗谷沢橋は一級河川真室川を渡る橋で、旧橋は昭和34年に架けられ、主桁や床版の腐食など経年劣化が進行していました。

また道路幅員も狭く、通行車両への荷重制限（14t）がなされていたことから、道路の機能向上と、安全性を確保するために、橋梁の架替を行いました。

事業個所付近は、山々に囲まれ、真室川が流れ、野外活動のできる神室少年自然の家があるなど、たいへん自然豊かな環境となっています。



～工事を見守る木彫りの鷹～

※関沢・栗谷沢地区は最後の鷹匠といわれた故・沓沢朝治（くつざわあさじ）氏の活動拠点となっていました。



令和3年12月開通

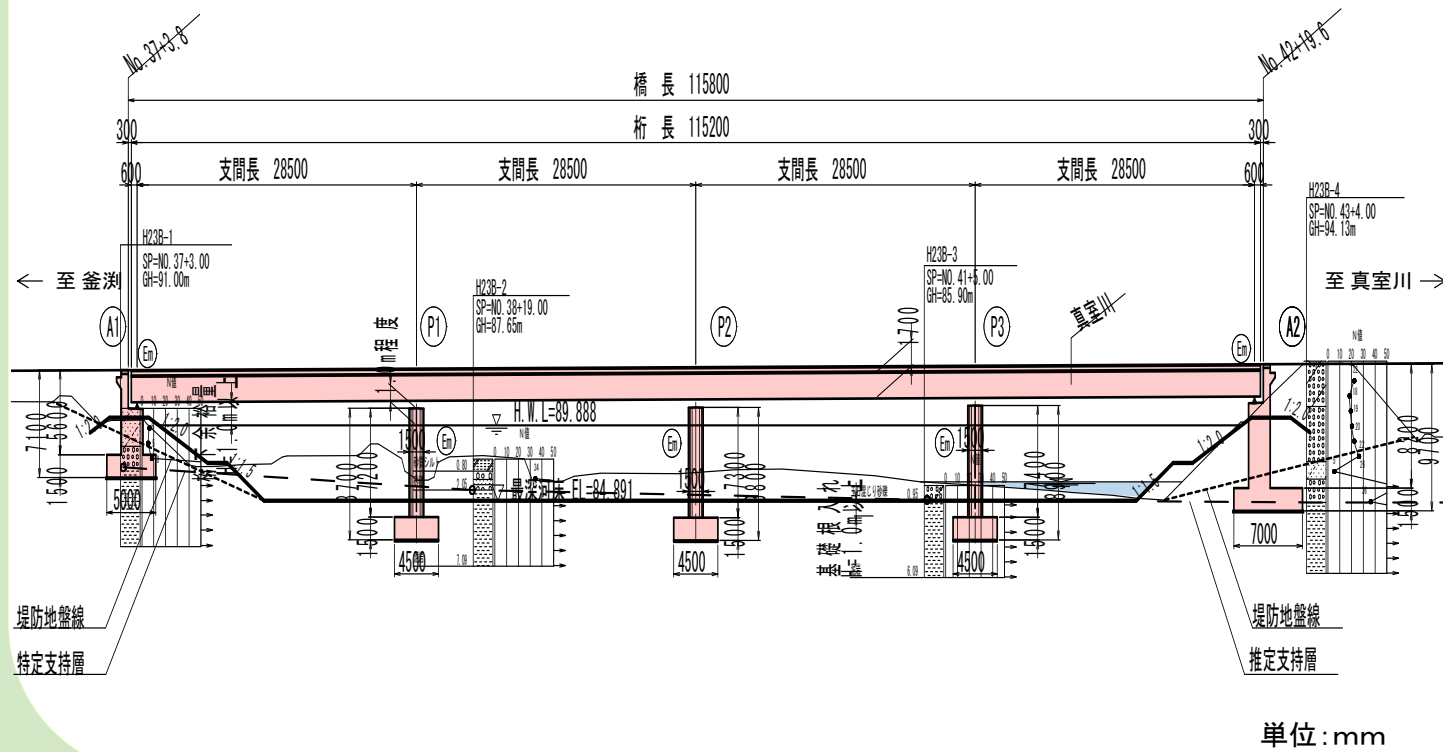
山形県

山形県 最上総合支庁 建設部 道路計画課

〒996-0002 山形県 新庄市大字金沢字大道上2034

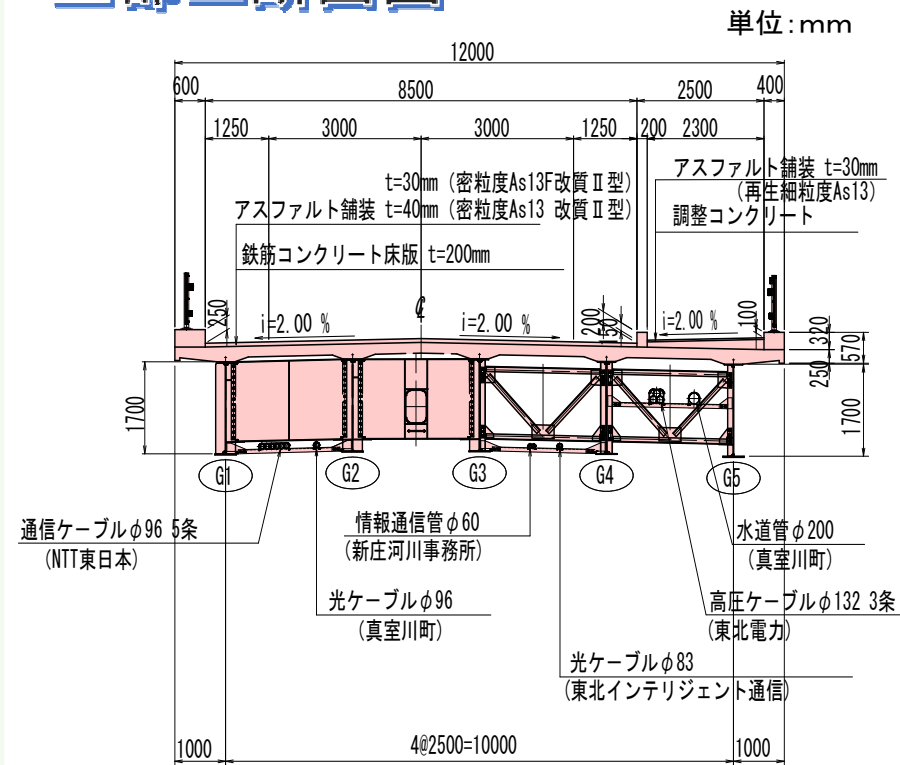
電話 0233-29-1401 FAX0233-22-1118

側面図



単位: mm

上部工断面図

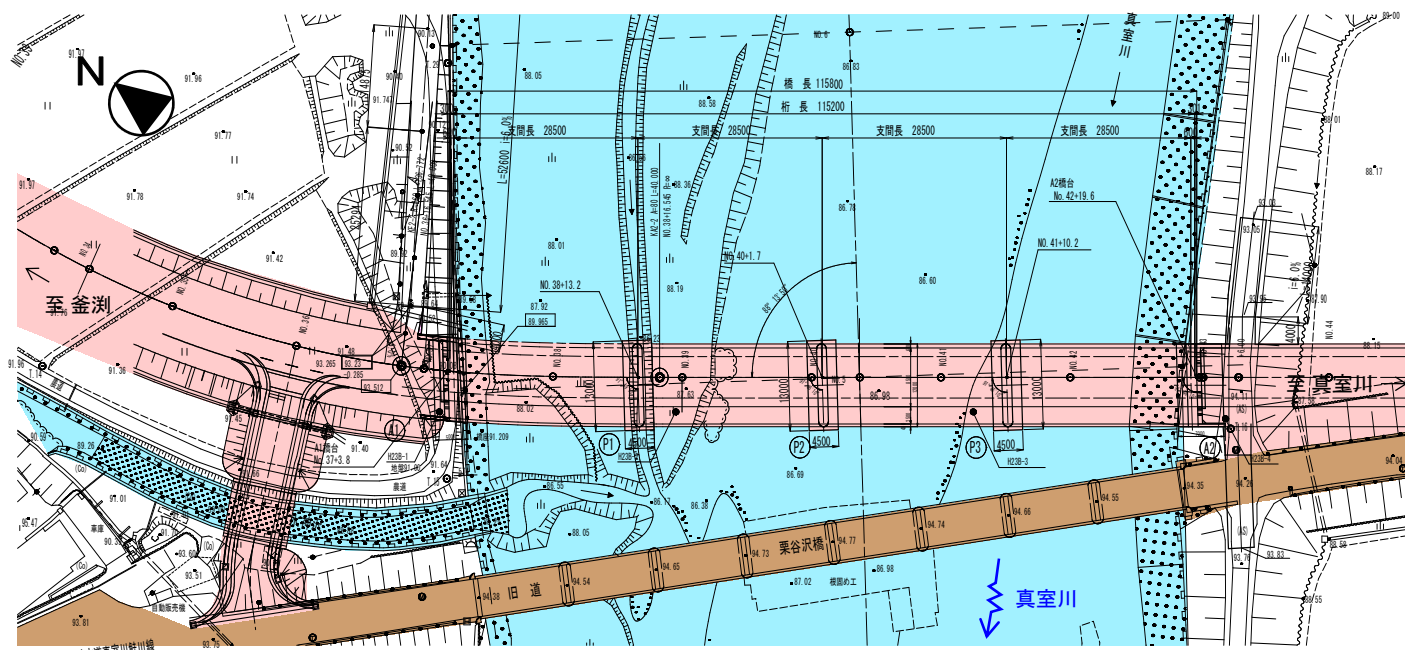


新橋は大きな地震にも耐えられるような設計となっています。
 また、ライフラインとなる、水道管、電力線、通信線などが一緒に設置されています。

設計条件

路線名	主要地方道 真室川鮭川線	
位置	最上郡真室川町大字川ノ内 地内	
道路規格	第3種 第3級	
設計速度	V=50km/h	
橋長	L=115.8m	
桁長	L=115.2m	
支間長	28.500+2x28.500+28.500m	
幅員構成	1.25+3.00+3.00+1.25+0.20+2.30+11.0m(有効幅員)	
設計震度	レベル1地震動 Kh = 0.17 (1種地盤 B2地域)	
活荷重	B活荷重	
雪荷重	W=1.0 kN/m ²	
添架荷重	通信ケーブル + 光ケーブル q = 0.40 kN/m 情報通信管 + 光ケーブル q = 0.20 kN/m 高圧ケーブル + 水道 q = 0.70 kN/m	
縦断勾配	-1.030%~0.340% VCL=120.0m~1.550% VCL=40.0m	
横断勾配	車道部 6.00%片勾配~2.00%拌み勾配 歩道部 2.00%直線勾配(車道側に下る)	
平面線形	クロソイドA=80~直線	
斜角	A1: 右83°25'52", A2: 右88°13'50" P1: 右88°10'50", P2~P3: 右88°13'50"	
舗装	アスファルト舗装 t=70mm	
床版形式	鉄筋コンクリート床版 t=200mm	
支承形式	免震支承	
上部工形式	4径間連続非合成版桁橋	
下部工形式	逆T式橋台、壁式橋脚(小判形)	
基礎工形式	直接基礎	
材	上部工	コンクリート: σ _{ck} = 24N/mm ² 鉄筋: SD345
	基礎工	コンクリート: σ _{ck} = 24N/mm ² 鉄筋: SD345
適用示方書	道路橋示方書・同解説 I~V (平成24年3月)	

平面図



単位: mm

旧橋は7基の橋脚をもつ橋となっていたが、新橋では3基まで少なくし、河川の増水時に安全に水を流せるように設計しています。
 また、経済性、施工性、維持管理のしやすさも考慮して橋梁形式を決定しました。

事業区間 全体延長1,570m (平成23年度から事業実施中)

令和3年度まで完成延長1,040m

栗谷沢橋
 橋長115.8m



令和3年9月15日撮影